

<大賞 1団体>

■ 特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティ おふいすパワーアップ（京都）  
「産前・産後支援 沐浴キャラバン隊」

<p>団体概要</p>	<p>少子社会の中においても、女性と子ども、そして全ての人々が基本的人権を守られながら、自分らしく幸福な人生を歩んでいきたい。その実現に向けて、出会いと交流、成長の支援、それを手助けする活動を通して、豊かな生活文化環境の向上を目的に様々な取り組みを行っている。</p> <p>具体的には、子育て中の母親にとって必要な京都地域密着の育児情報誌「京都子連れパワーアップ情報」を1999年から発信し、その他、「京都の幼稚園・保育園情報」「不登校ガイドブック」の発行、子育て講座・イベントの開催、子育て相談事業など多彩な活動を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、実習を受けた“沐浴キャラバン隊”が、初めての出産で不安な女性の家庭を訪問することで、新たな形の子育て支援の体制を作るものである。</p> <p>具体的には、当団体事務所を「産前産後コミュニティルーム」として開放し、産前産後支援の希望者を募り、助産師より基礎知識や沐浴実習を受けた“沐浴キャラバン隊”が、産後で手助けのいる各家庭を訪問する。同時に、母親の状態によっては、家事や育児サービスの情報提供を行う。特に、若い母親から最も求められているベビーマッサージについても講習に加え訪問時に実施する。さらに、訪問後もコミュニティルームで行う相談・交流活動へとつなぐことで、継続的な支援をめざす。</p> <p>産前産後の女性支援は、健やかな子どもを育てることにつながるという信念に基づいた、大きな社会的使命を担った事業である。</p>
<p>講評</p>	<p>昨今は出産後3～4日で病院を退院する中、肉体的に十分に回復していない厳しい状況で母親は苦勞している。また、実家の親も介護事情から見てもらえないケースが増えている。そのような状況で、特に初めて出産する女性の不安は大きく、産前産後の基礎知識や沐浴などのサポートに対するニーズは極めて高いものがある。</p> <p>本事業は、子育てで困っている母親にスポットを当てたこと、各家庭を訪問するという出掛ける仕組みを作ったこと、「制度のはざま」として埋もれてしまっている切実な子育て支援ニーズを顕在化させたこと、さらに、この社会的ニーズへのサービスを市民の助け合いによって事業化することで、今後のビジネスモデルに成りうる可能性もあることなどが極めて高く評価された。これからの本事業の展開に寄せる期待は大きく、今回の受賞をきっかけにさらに発展させ、地域での子育て支援のモデルとなって欲しい。</p>

<優秀賞 2団体>

- 特定非営利活動法人 子育ては親育て みのりのもり劇場（京都）  
「“内職集団みのりーず”」

<p>団体概要</p>	<p>子を育てる親が子育てを楽しみ、その喜びをかみしめてこそ、子どもは伸び伸びと育つ、そのことによって親はさらなる喜びを味わい、親も子も成長する「子育ては親育て」だと考えて、現役育児中の母親を中心に2007年に設立した。自ら考える思考力、問題を解決する発想力、思いを形にする行動力、人とつながるコミュニケーション力など、子どもらしく暮らす中で必要な力を自然に身につけ成長するために、地域とかかわる親子、親子を支え共に成長する地域をめざして活動している。</p> <p>具体的には、親同士のディスカッションである「子育て joy トーク」、体験型知的経験・講座の「ワンコイン joy ゼミ」、参加型体験学習の「みのりのもりキッズ・ネイチャー」などに取り組んでいる。</p>
<p>事業概要</p>	<p>内職は、小さな子を持つ母親のライフスタイルに合った仕事の形ではあるが、単独での作業であるため、孤独で多大なる負担となっていた。本事業は、“内職”を当団体の事務所内で“内職集団 みのりーず”として集団化するものである。そして、子どもを見守りながら作業することで、母親達の新しい就労と、仕事仲間、兼育児仲間という新しいコミュニティの形を作っていくものである。</p> <p>具体的には、当団体の事業所一角を作業場とし、製品開発・広報企画・販売計画のための作業を行う。子どもたちは、事務所スタッフや手の開いた母親の見守りを受けながら、多目的スペースにて多年齢集団で遊ぶ。企業からの請負内職を行うだけでなく、オリジナル商品の開発・企画・販売、さらには現役子育て主婦の積極的かつ創造的な社会参加の場とする。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業を通して、働きたいと思っても、小さな子どもの育児のため働きに出にくかった母親達に、集団内職という形で安心して仕事と育児を楽しめる職場を作り出すこと、また、団体スタッフや地域住民などに見守られ、異年齢集団で集うことにより、子ども達の健全な成長が期待できる。“内職”という言葉をキーワードに、仕事起こしや社会参加につながる新しい可能性を生み出す制度・仕組みをめざしたものであり、是非、継続化して欲しい。</p> <p>この事業は、自己実現と社会参加の入口を創ろうとしている点や、今後新たな発想が生まれ広がる可能性があることが高く評価された。NPO活動を通して自らの生活用品程度を稼ぐことができる発想は重要であり、どこでも出来る仕組みである本事業を応援することで、今後の波及・発展することを期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 高砂キッズ・スペース (兵庫)

「こどものまち高砂2010」

<p>団体概要</p>	<p>1984年に高砂市学童保育連絡協議会として設置、2006年にNPO法人格を取得し、現在に至っている。子どもや子育て世代を支援することを目的に、学童保育だけでなく、子どもとその保護者全般を対象とした地域づくりと子育てサポートの活動を目指している。</p> <p>具体的な事業として、①高砂市内全学区10箇所の学童保育所管理運営事業、②小学生を対象としたキャンプ・農業体験などの青少年の健全育成事業、③子育て世代の保護者を対象としたセミナーなどの相談支援事業、④インターネットでの情報発信事業など、地域で幅広い子育て支援事業を展開している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、子ども達が自ら作り上げるイベント『こどものまち』を通して、自分の住む地域への愛着と、自己肯定感を育むことを目的とする。子ども達が自分で考え、行動するという自律を育み、自分で選び、責任において行動をすることによって自己肯定感を持つことが出来る。職業体験、町の仕組みの理解と体験、金銭感覚シミュレーション、遊びの場や異年齢集団の居場所などを通じて、子ども達が多くの学びと経験を得ながら地域交流を図る。</p> <p>具体的には、先住民と呼ばれる小学校高学年のクラブを発足し、まちのしくみを勉強し、選挙によって「こどものまち高砂市長」を決定する。そして、やってみたいお店・お仕事に挑戦し、商品の仕入れなど試行錯誤をしながら本物のお店が出来るまでを経験する。地域の商店街が会場となり、子ども通貨を使用することで、普段とは異なる客層を呼び、商店街が賑わう相乗効果も生まれる。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、学童保育所管理運営事業を下地としながら、子どもが主役となる事業として企画されている点が特徴的である。さらに、子どもに限定した地域通貨のシステムは珍しく、とても面白い事業となっている。</p> <p>また、本事業が、チャレンジの機会だけでなく、失敗できる場としても提供していること、学童に来る機会が減る小学校高学年を上手く循環させて事業を動かしていること、地元の商店街を舞台に大学生や保護者、子育て団体など様々な協力と連携により子どもたちをサポートしていることなどが、高く評価された。今回の2010年度で3回目となるが、400人規模の取り組みを継続させる内容であり、さらに東播磨地区に波及する動きがあるなど、今後の広がりも期待したい。</p>